「自然をモチーフにした千代紙」

◆竜田川文（たつたがわ）

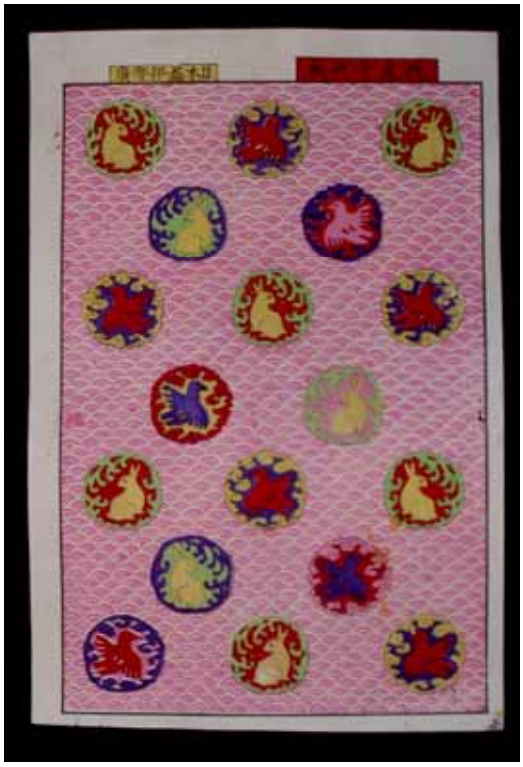
流水に紅葉を散らした文様を竜田川文といいます。この文様は、紅葉の名所竜田川を詠んだ「竜田河もみぢみだれて流るめりわたらば錦なかやたえなむ」という古今和歌集の歌にちなんでつけられました。

◆霰（あられ）　文

一面に散らされた大小の丸は霰をあらわした文様です。

流水に配された水車には牡丹や桜、菊、紅葉などの植物が描かれています。

◆青海波文（せいかいは）



同心円の弧がうろこ状に並んでいる文様は、青海波文（せいかいは）と呼ばれ、波文様の一つです。

波兎文（なみうさぎ）

雲鳥文（くもとり）

◆観世水文（かんぜみず）

能楽の観世太夫（かんぜだゆう）の紋所が渦巻文様であるところから、渦を巻いた水の文様を観世水といいます。

扇は、末が広がることから縁起のよい文様とされています。この千代紙のように扇に貼る地紙（じがみ）に美しい絵を描いて散らしたものは地紙散らしと呼ばれています。

◆雷文（らいもん）

稲妻形に屈曲した線で作る連続模様は、雷文と呼ばれ、中国で古代から愛好された文様です。雷文を背景に描かれているのは桐（きり）です。

◆雲鶴文（うんかく）

雲間に飛び交う鶴の文様は伝統的な文様のひとつです。
様々に姿を変える雲をかたどった文様は、形によって瑞雲（ずいうん）、飛雲、流雲（ながれぐも）などと名づけられています。

図中に見えるこの雲 は、雲珠と呼ばれる文様です。

八代市立博物館

◆雲錦文（うんきん）

桜と紅葉の組み合わせは、花の雲、紅葉の錦から雲錦文と呼ばれています。尾形乾山が発案したといわれ、陶磁器によく見られる文様です。

上の千代紙と下の千代紙をよく見比べてください。何か気づきませんか？
実はこの2枚の千代紙は、同じ版木を使って摺（す）られたものです。使う色によって印象がずいぶん違います。その時の流行にあわせて色を変え、違った雰囲気の作品を作り出すことができるのも千代紙の魅力の一つといえます。